

松 山 大 学 論 集
第 20 卷 第 4 号 抜 刷
2 0 0 8 年 10 月 発 行

帝国農会幹事 岡田温(13)

—— 帝国農会幹事時代⑦ ——

川 東 靖 弘

帝国農会幹事 岡田温⁽¹³⁾

—— 帝国農会幹事時代⑦ ——

川 東 蛸 弘

目 次

はじめに

- 第1章 大正10年
- 第2章 大正11年（以上、第18巻第1号）
- 第3章 大正12年
- 第4章 大正13年（以上、第18巻第2号）
- 第5章 大正14年
- 第6章 大正15年（以上、第18巻第5号）
- 第7章 昭和2年
- 第8章 昭和3年（以上、第18巻第6号）
- 第9章 昭和4年（以上、第19巻第2号）
- 第10章 昭和5年（以上、第19巻第3号）
- 第11章 昭和6年（以上、本号）

は じ め に

前稿¹⁾で、帝国農会幹事・岡田温の帝国農会幹事時代（大正10年4月～昭和11年9月）の活動のうち、大正10年～昭和5年まで考察したが、本稿では昭和6（1931）年の温の活動について考察することとする。本年は、昭和4年10月アメリカに端を発した大恐慌が世界恐慌に発展し、日本はその影響をモ

1) 拙稿「帝国農会幹事 岡田温^{(7)~(12)}—帝国農会幹事時代①~⑥—」（『松山大学論集』第18巻第1号、2、5、6号、第19巻第2、3号、2006年4、6、12月、2007年2、6、8月）。

口に受け、全般的恐慌状態、いわゆる昭和恐慌の真っ只中にあった。中でも農業・農村の恐慌状態は酷く、農産物価格は暴落し、農家所得は激減し、農家負債は増大し、農民は窮乏のどん底に陥った。また、昭和6年秋の産米は東北、北海道の冷害・凶作で農村不況は深刻化した。帝国農会はこの昭和恐慌、農業、農村不況、農民危機打開のために、下からの農政運動を盛り上げていき、温がその中心的役割をになっていた。

第11章 昭和6年

昭和6（1931）年、温、60歳から61歳にかけての年である。帝国農会の幹事を続けている。

本年は農業、農村、農民の危機がさらに深まった。繭価（全国平均上繭1貫当たり、春蚕）は昭和4年には7円57銭であったが、5年には4円、6年には3円8銭に大暴落した。米価（暦年平均、1石あたり）は昭和元（1926）年の37.86円が、2年に35.26円、3年に31.03円、4年に29.07円へと一貫して下落していたが、5年に25.60円へと暴落し、6年には18.47円と最悪の水準に落ち込んだ²⁾この米価暴落の原因は、前年発生のアメリカの大恐慌が日本に波及し、昭和恐慌となり、日本を恐慌状態に陥れたこと、また、朝鮮・台湾からの移入米の激増が続いたこと、そして、昭和5年産米の大豊作のためであった。ところが、6年産米は東北・北海道が冷害のため、凶作となったが、米価は上がらず、農村不況が続いた。日本農業の基軸である米価と繭価の大暴落は、農家を窮乏させた。農家負債総額は、帝国農会の調査では、農業恐慌前には40億円を下らないと推定されていたが、昭和6年には60億円と推定された。それは1戸平均1,083円で、昭和6年の平均農家所得（552円）の約2倍にあたり³⁾、深刻な社会問題となった。

2) 加用信文監修、農政調査会編集『改訂日本農業基礎統計』（農林統計協会、1977年）546頁。大日本蚕糸会『蚕糸年鑑』（昭和8年版）63、184頁。

3) 帝国農会調査部「農家負債調査」（『帝国農会報』第21巻第6号、昭和6年6月、70～71頁）。加用信文監修『改訂日本農業基礎統計』。

また、昭和恐慌時の政権は浜口雄幸民政党内閣（蔵相は井上準之助、農相は町田忠治）である。井上財政下、金解禁、財政緊縮、行政改革が推進された。また、町田農相下、農業・農政に対しては厳しい政策が打ち出された（郡農会の廃止、農林商工両省の合併問題等々）。さらに、町田農相は帝国農会の役員人事にも介入した（政友会よりの矢作栄蔵会長の交代）。

この米価・繭価の暴落、また、浜口内閣の厳しい農政に対し、帝国農会は1月に道府県農会長会議、3月にも再度道府県農会長会議、6月には8大農区代表道府県農会長協議会、7月にも2度にわたり道府県農会長協議会を開催した。また、農業団体連合大会も開催し、農業恐慌対策や農林商工両省合併反対等に取り組み、下からの農政運動を強力に展開した。温はその運動の中心的位置にいた。

以下、本年の温の多忙極まりない活動を見てみよう。

第1節 帝国農会幹事活動関係

昭和6（1931）年、温は正月を故郷で迎えた。1日は石井小学校における新年宴会に出席し、不景気対策について講話、2日は農産物価格について研究、3日は来客者に応対、4日は門田晋愛媛県農会長を訪問し、県農会問題、府県農会長会議等について協議した。

1月6日、温は東京での帝国農会幹事としての活動のために上京の途について。この日、夜6時20分高浜港発の八島丸に乗船し、翌7日午前6時神戸に上陸し、9時7分発の急行（3等）に乗り、上京、午後9時帰宅した。なお、3等に乗車したのは「昭和六年ノ大節約」のためであった。

1月8日から温は帝国農会に出勤し、種々の業務を行った。8日は道府県農会長会議案の作成、9日は帝農の幹事会を開催し、道府県農会長会議提出案を決定、10日は米に関する各方面からの質問に回答等、11日は矢田村の基本調査、12日は帝農の評議員会を開催し、池沢正一委員（千葉県）出席の下、道府県農会長会議提出案を決定した。13日は農政協会常務理事会を開催し、松

岡, 小金井, 麦生, 池沢, 原, 菅野ら出席の下, 農政運動を協議し, 道府県農会長会議の決議に従い, 行動することを決定した。14日は午後1時より帝農にて関西府県農会長会議(兵庫県農会主催, 帝農は陪席)があり, 温も陪席したが, 関西の幹部たちは農会長大会開催を要求し, 閉口している。この日の日記に「午後一時ヨリ関西府県農会長会議開催。但シ, 右ハ兵庫県農会主催ニテ, 帝国農会ハ陪席セルノミ。農会長大会開催ニ付反対意見ヲ述ベタルモ, 植松, 山脇, 門田ノ有力者ハ開催説ニテ閉口ス」とある。関西府県農会の下からの突き上げが判明する。

1月15日から3日間, 帝国農会は道府県農会長会議を開催した。15日午前10時半より開会し, 矢作会長挨拶の後, 増田幹事が庶務について, 吉岡幹事が販売斡旋について, 高島幹事が小作法案, 農家負債整理について, そして温が米生産費調査について報告し, ついで, 協議事項の審議に移った。協議事項は「米価対策に関する件」「蚕業対策に関する件」「農家負担軽減に関する件」等であった。「米価対策に関する件」については温が提案説明したが, 各府県の農会長等からは「朝鮮米の移入が制限されないために買上げの効果がでないか」(奈良の福井甚三会長)「農村の現状は第二次買上其他有力なる対策の実行によらなければ到底救はれない」(広島 of 麦生富郎幹事)等の不満の意見が相次いだ⁴⁾。16日は午前10時より各委員会が開かれ, 温は第1委員会(米価対策, 農家負担軽減等)に出席, そして, 午後2時本会議が開かれ, 「米価対策ニ関スル件」「農家負担軽減ニ関スル件」「蚕業対策ニ関スル件」「刻下ノ情勢ニ際シ, 農会ノ経営ニ関スル件」が決議された。このうち, 「米価対策ニ関スル件」は, 「甲, 応急対策。一, 農村ノ窮状ニ鑑ミ, 政府ハ速ニ二百万石以上ノ第二次買上ヲ実施セラルルヤウ極力要望スルコト。右買上価格ハ生産費ヲ十分考慮セラレタキコト。二, 米穀法運用資金ノ充実ヲ期スルタメ資金限度増加案ヲ本議会開会当初ニ提出セラレタキコト。三, 道府県ニ於ル罹災救助基金

4) 『帝国農会報』第21巻第2号, 昭和6年2月, 113~114頁。

ニ依ル米買上ヲ促進セラレタキコト。四、貯蔵米穀ニ対シ、一石三円ノ奨励金ヲ交付セラレタキコト。五、朝鮮米ノ月別移入統制ヲ励行セラレタキコト。六、政府所有米ノ海外輸出ヲ今一層促進セラレタキコト。乙、恒久策。一、米穀調査会ノ決議事項ヲ速ニ実現スルタメ米穀法改正案ヲ本会議ニ提出セラレタキコト」であった⁵⁾。終わって、委員を2組に分け、農相と内相を訪問し、陳情した。17日も道府県農会長会議を延長し、決議実行方法を協議し、拓相、政友、民政両党を訪問、陳情した。また夜、農政協会常務委員会も開催した。17日の日記に、「道府県農会長会議（延長）ヲ開キ、実行方法ヲ協議ス。近来ニナキ真剣味ノ議論タカハサル。会長、副会長ムキニナリ、論議ス。松田拓相訪問…。各農区一名ツ、自分引率。午后政友会、民政党本部ヲ訪問シ、農村ノ窮状ヲ訴フ。再び集合シテ実行委員其他ノ協議ヲナシ、散会ス。曙ニテ農政協会常務委員会ヲ開ク。松岡、麦生、松山、池沢、菅野ト各幹事出席。気焰ヲ挙グ」とある。18日、温は運動委員とともに、幣原首相代理に面会し、帝農の決議を陳情した。19日も運動委員が会合し、農林省を訪問、陳情した。そして、ひとまず運動委員は帰国することにした。

1月20日以降も温は種々業務、農政運動を行い、また出張した。20日は道府県農会長会議の運動計画案の考察、21日は八田宗吉代議士に会い、農政研究会開催について協議、22日は農林省の荷見米穀課長を訪問し、米穀買上げの「強制談判」を行い、また、正副会長と米価対策について協議、23日は運動委員の松岡、石坂、池沢が来会し、朝鮮米移入統制について衆議院に朝鮮総督府の児玉政務総監を訪問せんとしたが、居所不明にて面会しえなかった。また、この日、村上国吉、荒川五郎代議士と農政研究会幹事会の開催を協議した。

1月23日、温は午後6時東京発にて静岡県に出張の途につき、11時15分静岡市につき、宿泊し、翌24日、静岡県志太郡藤枝町の農学校に行き、11時

5) 同、1頁

より志太郡農会主催の農業倶楽部の講演会に出席し、「自覚の研究」と題し、2時間ほど講演し、終わって、午後3時39分焼津発にて帰京の途についた。

1月25日、午後5時より帝農評議員会を開き、岡本、加賀山、池沢、八田委員出席の下、米買上げ、硫安関税問題（硫安製造会社が、輸入硫安のため国産の価格が安いとして政府に働きかけて関税を付加し、価格維持を運動しようとしていることに反対）を協議した。26日は衆議院に行き、西村代議士、土井代議士と農政研究会幹事会の打ち合せ、また、村松、松田代議士と農村問題の協議、27日も衆議院に行き、農村代議士と会談、28日は運動委員の松原（滋賀）、石坂・高井（埼玉）、有馬（茨城）、麦生（広島）らとともに農林省の松村農林次官を訪問し、米買上げの陳情、29日も運動委員とともに商工省を訪問し、田島商工次官に硫安関税付加反対を陳情、あと、内務省を訪問し、潮内務次官に罹災救助基金による米買上げを陳情、30日午前は運動委員、矢作会長と米穀委員会に関する打ち合せ、午後は今後の米穀問題対策、硫安問題対策を協議した。31日も運動委員と米穀委員の藤田四郎（貴族院議員）らを訪問し、米買上げを陳情、また、町田農相を訪問し、陳情した。

2月も温は種々の業務、農政運動を行い、また出張をした。1日、温は運動員を2組に分け、温は松原五百蔵（滋賀県農会副会長）、高島一郎幹事と田昌衆議院議員（民政党、大蔵政務次官）を訪問し、目下の農村問題について陳情した。また、この日、午前11時より開催の政府の米穀委員会は内地米100万石の買上げを決めた。この日の日記に「米穀調査会（注、米穀委員会の間違い）開会。百万石買上ヲ決ス。右ハ可及的旧年末ニ決行ノ意。矢作会長ト共ニ池田、土井両氏来会。運動委員モ大体満足ス」とある。2日は増田幹事が運動委員を帯同して依商工大臣を訪問し、硫安関税反対の陳情をし、米買上げも決まり、これでひとまず運動委員の運動を打ち切ることにした。3日は運動委員一同が米穀委員へのお礼廻りを行い、帰郷した。

2月4日、午後5時より偕楽園にて、農政研究会の幹事会を開催し、政友会から東武、土井権大、東郷実、高橋、加藤、民政党から西村丹治郎、村上国

吉、岡本実太郎、帝農側から矢作、安藤の正副会長、幹事、および道府県農会実行委員らが出席し、米穀法並びに米穀特別会計法改正、硫安関税問題等について協議した。5、6日は硫安引き上げ反対理由の執筆等、7日は帝農創立20周年記念号の原稿を執筆し、また午後5時より鉄道協会にて貴族院議員との農政懇談会を開催し、貴族院側から上山満之進、野村益三、堀田正恒ら21名、帝農側から正副会長および各幹事、地方から松岡、松山、原、菅野らが出席し、現時農村不況の実情ならびに対策について協議した⁶⁾。8日は農政研究と海南新聞の原稿執筆、10日は硫安値上げ反対の原稿執筆を行い、また午後5時より在京評議員会を開催し、岡本、加賀山、池沢委員出席の下、道府県農会表彰者を決定した。11日は率勢米価に関する原稿、12日は矢作会長執筆の硫安価格引き上げ反対理由書を各幹事と検討、13日は西ガ原に行き、安藤副会長と硫安値上げ反対理由書を相談し、また午後6時より躰翠軒にて農政研究会小委員会を開き、西村、小西、岡本、東郷、土井らの出席の下、農業問題について懇談、14日は硫安価格引き上げ反対理由書の清書、15日は米穀法改正に関する所見を執筆した。

2月16日、温は午後7時24分上野発にて金沢に出張の途につき、翌17日午前7時40分金沢に着いた。この日、温は午後1時より兼六公会堂にて開催の町村農会幹部講習会に出席し、来会の120余名に対し、農業経営を基礎とせる農政について2時間ほど講義した。18日も午前9時より午後4時まで講義し、終わって、6時20分金沢発にて帰京の途につき、翌19日午前6時40分上野に着し、小憩の後、帝農に出勤した。

2月20日、温は正副会長出席の下、幹事会を開催し、また、米生産費弁明、農政研究会総会の宣言書の執筆等を行った。21日は実科問題で、帝大に古在、町田教授を訪問、また、増田幹事と議会に行き、農政研究会幹事と議案につき懇談、22日は米生産費の弁明の原稿を執筆した。23日は午後6時より

6) 『帝国農会報』第21巻第3号、昭和6年3月、147頁。

帝農にて農政研究会総会を開催し、22名が出席し、矢作会長が議長となり、澱粉輸入関税引き上げ、農家負債整理、農家負担軽減問題等を協議した⁷⁾。24日は農林省案の米生産費調査方法への反駁文の執筆、25日は郡農会廃止反対理由の執筆、また、農林省の米生産費調査方法に反対の記者会見等を行った。

2月26日、温は午後3時5分上野発にて福島県における農業経営合理化研究会での講義のために出張し、10時半福島に着き、自動車で桑折に行き宿泊した。27日、温は桑折の蚕業取締所支所にて開催の伊達郡を区域とする農業経営合理化研究会に出席し、来会の160余名に対し、終日講義を行った。しかし、疲れのためか、途中で貧血を起こし、2時間ほど静養している。28日も午前10時より1時間ほど講義を行い、後、研究会に移り、質疑応答を受け、午後2時福島に帰り、3時40分発にて帰京の途につき、8時10分上野に着き、帰宅した。

3月も温は道府県農会長会や議会対策等種々業務を行い、また出張した。1日は高橋亀吉依頼の農村社会問題研究会のための原稿執筆、2日は郡農会廃止反対理由書を執筆した。3日、温は突然神経痛を起こしたが、無理に出勤した。温ら幹事たちは農政運動を盛り上げるために道府県農会長会の開催を主張したが、安藤副会長の反対により、実現せず、運動委員22道府県の召集となった。4～6日、温は終日休養した。7日、温は帝農に出勤した。この日、兵庫にて開催の緊急関西道府県農会長会（3月6日）に出席していた高島一郎幹事がその決議（米穀法の改正並びに運用上に関する件、硫安問題対策に関する件、農村救済促進に関する件、農会経営上に関する件）を持ち帰り⁸⁾、形勢変化し、急遽11日に道府県農会長会議を開催することを決めた。この日の日記に「高島幹事、兵庫ノ関西農会長会（出席）ヨリ帰り形勢変化、九日ヨリノ実行委員会ヲ中止シ、十一日道府県農会長会ヲ開クコトニナリ、直ニ電通ス」とある。ここでも関西道府県農会の下からの突き上げを見て取ることが出来る。8日、温

7) 『帝国農会報』第21巻第3号、昭和6年3月、148頁。

8) 『帝国農会報』第21巻第4号、昭和6年4月、122頁。

は終日在宅し、率勢米価反対論の原稿を執筆、9日は出勤し、道府県農会会長の問題を協議、10日は道府県農会会長の準備、また在京評議員会を開催し、岡本、加賀山、池沢、八田委員出席の下、道府県農会会長会議提出議題を協議した。

3月11、12日の両日、帝国農会主催の道府県農会会長協議会が帝農事務所にて開催された。11日午前10時半開会し、矢作会長の挨拶の後、直ちに協議事項の協議に入った。協議事項は、(1)郡農会問題に関する件、(2)米穀法並米穀需給調節特別会計法改正に関する件、(3)硫安問題に関する件、(4)養蚕農家統制に関する件等で、(1)については吉岡幹事、(2)については温が説明し、質疑の後、委員会に分かれて協議した。翌12日も午前委員会、午後総会を開き、(1)郡農会問題に関する決議（系統農会の中枢である郡農会を廃止せんとする農会法改正法律案反対）、(2)米穀法並米穀需給調節特別会計法改正に関する決議（最低基準価格決定に当って帝国農会における調査方法を採用すること、朝鮮米の移入統制に関し徹底せる計画を樹立すること）、(3)硫安問題に関する決議（輸入硫安に対する関税付加反対）、(4)養蚕農家統制に関する決議（蚕糸業組合統制法案反対）等を決議した。また、政府上程の地租法案（負担軽減）通過の陳情を決議した。総会を終わり、神奈川、兵庫ら22道府県農会の実行委員を指名し、運動にあたることにした⁹⁾。13日、運動委員が参集し、運動方法を協議し、手分けして、衆議院、貴族院議員を訪問することになり、温は松岡勝太郎（岐阜県農会副会長）とともに衆議院に行き、村上国吉代議士に面会。14日も運動委員が参集し、前日の報告をし、議員への運動を続け、温は衆議院に行き、西村、村上、荒川、東郷、東、高橋、土井代議士等を訪問。15日は日曜日で終日在宅。16日は衆議院に行き、民政党の桜内、小道、富田代議士を訪問し、郡農会廃止反対を陳情。17日も衆議院に行き、西村、東代議士等に面会し、陳情した。18日最後の運動を行い、温は衆議院に行き、佃、谷原代議士等に

9) 『帝国農会報』第21巻第4号、昭和6年4月、127頁。

面会した。そして、午後帝農に運動委員が参集し、矢作会長出席の下、運動を協議し、郡農会法改正案（廃止法案）は23日上程だが、審議未了のめどがついたとして、数名の委員を残し、運動委員の帰任をきめた。この日の日記に「会長出席、運動委員ヨリ経過報告、農会法改正ハ二十三日上程ノ予定、米穀法ノ見込モツキタルヲ以テ、松岡、松山、池沢、石坂ヲ運動委員トシ、其他ノ委員ハ解散ス」とある。19日は幹事会を開き、4月23、24日に道府県農会長会を開催することを決めた。20日は米穀法改正問答の執筆を行い、また、正副会長出席の下、幹事会を開いた。21日は地租法案の通過危うしとの情報に接し、急遽、正副会長、増田幹事が会合し、実行委員上京を決定し、その旨伝達のため、増田幹事が温を訪れた。22日、温は増田幹事とともに貴族院議員の糸原代議士を訪問し、地租法案の情勢を聞いたが、情勢は混沌としていた。この日の日記に「増田君ト神田龍名館ニ糸原武太郎貴族院議員ヲ訪問シ、地租法案ニ対スル情勢ヲ聴ク。研究会ノ態度悪化ノタメ、形勢混沌トナル。松岡勝太郎氏出京。午后、松岡、増田三人ニテ貴族院小林氏訪問、小畑男爵、高橋氏ト協議シ、運動方針ヲ決シ、帰会…。道府県農会並ニ地租法委員ニ打電ス」とある。23日、温は松岡と貴族院議員の小林暢、伊藤太郎兵衛を訪問し、陳情、また衆議院の西村丹治郎、村上国吉代議士に面会し、郡農会廃止反対を陳情した。なお、この日、衆議院に農会法改正案（廃止法案）が上程され、9名の委員に付託された。24日、運動委員の松岡、池沢、麦生および増田幹事は終日議会につめ、郡農会改正法案、地租法案を見守っていた¹⁰⁾

3月24日、温は議会中の緊迫の中、午後8時10分東京発にて、奈良県に出張の途につき、翌25日午前6時50分京都に着き、奈良に向かい、午後1時より宇陀郡松山町の宇陀中学校にて開催の奈良県農会主催の農会幹部並びに総代講習会に出席し、約100名に対し農業経営について講演を行い、生駒館に宿泊した。この日、衆議院では郡農会廃止法案の採決がなされ、全会一致で否決さ

10) 『帝国農会報』第21巻第4号、昭和6年4月、128～130頁。

れた¹¹⁾ 26日、温は吉野郡上市町に行き、午後1時より郡農会会議室にて開催の講習会に出席し、約100名に対し、前日と同様の講演を行い、三崎楼に宿泊した。27日は宇智郡五条町に行き、午後1時半より小学校女子部講堂にて開催の講習会に出席し、120余名に対し、昨日と同様の講演を行った。質問多くでため、質問に十分こたえ、名月楼に宿泊した。なお、この日、貴族院で地租法案が可決された¹²⁾ 28日、温は午前8時五条町を出て、山梨県に向かい、午後8時19分甲府に着し、謹露館に宿泊した。29日、温は山梨県県会議事堂にて開催の山梨県農村経営研究会に出席し、「農業経営と経済政策の不調和」と題して2時間余り講演を行い、終わって6時5分発にて帰京の途につき、10時40分東京に着した。30日は内務省を訪問し、赤松君の就職活動依頼等。31日は農会改造私見を執筆し、また正副会長出席の下、幹事会を開催した。

4月も温は種々業務を行い、また、出張した。1日は農会改造問題を考案し、また、内務省を訪問し、赤松君の就職依頼等した。2日は農会改造問題について幹事、参事にて協議を行った。3日は終日在宅し、原稿を執筆した(著作の第2章「資本主義と非資本の折衝」)。4日は農会改造問題の原稿を執筆し、また、午後西ガ原に安藤副会長を訪問し、率勢米価と米生産費について協議、5日は終日在宅し、農会改造問題の原稿を執筆、6日は農会改造問題で、幹事、参事の委員会を開き、具体案を作成した。

4月7日、温は午前9時40分東京発にて農会幹部講習会のため滋賀県に出張の途につき、午後7時38分大津に着き、元禄旅館に投宿した。8日、温は午前6時50分宿を出て、神崎郡八日市町に行き、終交館にて開催の滋賀県農会主催の農会幹部講習会に出席し、来会の120余名に対し、午前9時から午後2時まで農会経営と農政問題について講演を行った。終わって、彦根町に行き、楽々園(井伊侯の中屋敷)に投宿した。9日は愛知県郡愛知町に行き、同郡農会楼上にて開催の講習会に出席し、来会の240余名に対し、前日と同様の講

11) 『帝国農会報』第21巻第4号、昭和6年4月、130頁。

12) 同、130頁。

演を行い、楽々園に帰宿した。10日、彦根町公会堂にて開催の講習会に出席し、来会の300余名に対し、午前9時より午後2時まで講演した。11日は坂田郡長浜町に行き、同町公会堂にて開催の講習会に出席し、来会の340余名に対し、前日同様の講演を行い、井筒屋に投宿した。12日は東浅井郡虎姫町に行き、同町小学校にて、来会の170余名に対し講演を行い、終わって伊香郡木下町に行き宿泊。13日は木下町惟香館に行き、来会の130余名に対し、午後2時まで4時間にわたり講演した。終わって、午後7時40分米原発にて帰京の途についた。なお、この日、浜口首相の病状悪化のため、内閣総辞職している。

4月14日、温は午前6時東京に着し、一旦帰宅後、出勤し、帝農主催の販売幹旋所長会議に出席した。なお、この日、若槻礼次郎民政党内閣（第2次）が成立している。日記に「若槻内閣成立。俵、松田、宇垣三大臣退キ、南、桜内、原氏入閣」とある。15日も販売幹旋所長会議に出席した。16日は販売幹旋主任者協議会に出席した。17、18日は帝農主催の農家生産物配給改善協議会¹³⁾（農林省、商工省、道府県庁、取引業者、道府県農会が参加）に出席した。同協議会では農家生産物統制に関する件等が議題となった。18日の日記に「昨日ニ続キ、午前幹事会、午後全体会議…。議論ノアリシ生産統制問題出ヅ。販売幹旋主任会ハ論客多シ」とある。19日、温は帝農幹事一同と埼玉県芝村長徳寺に行き、矢作先生のご令息の100日祭に参列した。20日は首相官邸、文部、農林省に行き、若槻新内閣の政務官や参与官に挨拶した。21日は明日からの道府県農会幹事主任技師協議会の議題である蚕糸業組合について、来会の長野県の伊藤千代秋技師、群馬県の山賀芳納技師、埼玉県の山田二郎技師らと下協議を行った。

4月22日より25日までの4日間、帝農主催の道府県農会幹事主任技師協議会が帝農事務所にて開催された。22日、まず矢作会長が挨拶し、ついで、帝

13) 『帝国農会報』第21巻第5号、昭和6年5月、131頁。

農の庶務に関し増田幹事，農業経営について岡田幹事，調査に関し高島幹事，販売斡旋に関し吉岡幹事が報告し，続いて協議事項⁽¹⁾農会の事業進展に関する件，⁽²⁾農業団体統制に関する件の説明，質疑があった。23日は小平蚕糸局長，明石蚕業課長が出席し，蚕糸業組合法（蚕糸業各分野包含の統一的カルテル法，3月30日公布，7月15日施行）について質疑，24日は石黒農務局長が出席し，一場の訓示的挨拶，そして委員会が開かれた。温は第1の農会の委員会に出席した。農会の事業改革については意見が多く，小委員会を選び，案の作成を行った。25日は午前中に協議会を終了した⁽⁴⁾。25日の日記に「午前中ニ協議会ヲ終了ス。今回ハ農会改造ヲ含ミタル産業統制問題ノミニ議論集中シタルタメ，熱心ニシテ一同会期ヲ延長シタ。尚，有二，三十人別室ニテ硫安問題ニ付，会長ト懇談ヲ遂ケ，会長ハ必要ニ応ジ道府県農会長会ヲ開クコトヲ声明サル。硫安不買同盟問題ノ議論高カリシ」とある。27日，温は上京中の笹井幸一郎愛媛県知事に面会，28日は午後1時農林省にて開催の米生産費調査主任会議に出席し，帝農の方針を説明し，後，正副会長出席の下，幹事会を開き，硫安問題対策を協議，30日は幹事，参事会を開き，産業団体問題について協議した。

5月も温は種々業務を行い，また出張した。1日は農林省に行き，有働耕地課長に尾崎重徳の就職依頼，また，村上国吉代議士と農家負債問題の協議等。

5月3日，温は午前10時東京発にて九州へのお出張の途につき，翌4日午前9時48分博多に着いた。温は福岡県庁にて開会の福岡県農会主催の青年篤農家農業経営指導会⁽⁵⁾に出席した。翌5日，午前9時半より0時半まで温が「農業経営と農政」について講演を行った。6日，温は午前8時20分博多発にて別府に向かい，午後1時別府に着し，松屋別館に宿泊した。翌7日，大分市の県農会講堂にて開会の大分県農会主催農村経営研究会に出席し，大分市および大分郡から来会の430余名に対し，午前9時より午後3時まで「農会の使命と

14) 『帝国農会報』第21巻第5号，昭和6年5月，128～130頁。

15) 『帝国農会報』第21巻第7号，昭和6年7月，106頁。

農業経営」と題して講演を行った。8日は午前7時に出発し、東国東郡国東町に行き、高等女学校にて開会の農村経営研究会に出席し、午後同郡から来会の720余名に対し講演を行い、万歳楼に宿泊した。9日は午前7時、自動車にて速見郡日出町に行き、同町小学校にて開会の農村経営研究会に出席し、来会の560余名に対し、講演を行い、終わって別府に戻り宿泊した。10日は午前6時別府を出発し、9時直入郡竹田町につき、同町小学校にて開会の農村経営研究会に出席し、来会の360余名に対し、午後3時まで約5時間講演を行い、岩城屋に宿泊した。11日は午前8時出発し、別府に戻り、休養した。また、農林省技師の渡邊保治が講演のために来たので、共に大分県知事を訪問した。12日は午前6時10分出発し、南海郡佐伯町に行き、同町役場楼上にて開催の農村経営研究会に出席し、来会の340余名に対し、講演を行い、宿泊した。13日は午前8時過ぎ臼杵町に行き、旧城跡甘堂館にて開会の農村経営研究会に出席し、来会の200名弱に講演を行った。この日の日記に「来会者二百名弱…。農会気分冷淡ナル町村農会多シ。正九時開会…。本日ハ地方人政治趣味ヲ考へ、農政問題ヲ多ク加味シタルカ、非常ニ熱心ナリシ。中学校ノ運動始リ十一時ニテ中食トシ、午後ハ会場ヲ郡農会楼上ニ変更シ、后五時閉会…。山田屋ニテ慰労会」とある。終わって別府に帰り、宿泊した。14日は宇佐郡糸江村の松崎正行（自作農）の経営を視察し、別府に宿泊した。15日は終日温泉にて休養し、また、著書の第2章の改作を行った。16日12時30分発の紅丸にて愛媛に向かい、午後6時半高浜港に着し、石井村の自宅に帰宅した。17日は終日在宅し、野口、尾崎の来客に対応した。18日は松山市に行き、県農会、県庁を訪問し、知事、内務部長らに面会し、19日は温泉郡農会、県農会を訪問し、中堅人物養成について打ち合わせを行った。

5月19日、温は午後6時50分発の屋島丸にて上京の途につき、翌20日午前6時半神戸につき、45分発の3等特急に乗り帰京し、午後5時東京に帰宅した。21日以降、帝農の業務を種々行った。22日は経営主任協議会の議案作成、また、正副会長出席の下、幹事会を開催し、関西府県農会協議会の決議事

項について協議等をした。23日は民政党の小山邦太郎、渡邊泰邦代議士らが来会し、正副会長に対し、官吏の減俸問題への帝国農会の態度を質問されている。25日は農林省における米生産費調査主任者会議に出席し、温は帝国農会の調査方針を説明した。なお、この日、官吏の減俸問題について対立が激化した。この日の日記に「減俸問題ニ対シ、鉄道及逓信省全員ト政府ト正面衝突トナル」とある。26日は午後6時より在京評議員会を開催し、関西府県農会協議会の決議事項について協議し、8農区より運動委員の上京を求め、運動することにした。27日は八基村調査（埼玉県）の編集、28日も同様、また、産業組合主催の二八会に出席、また、土井代議士が来会し、農家の負債整理問題を協議、29、30日も八基村調査等、31日は千葉県に行き、同県の農業関係技術者協会に出席し、2時間ほど米生産費について講演した。

6月も温は種々業務、農政運動を行い、また、よく原稿を執筆した。1日は農会時報の起稿、また、午後5時より学士会館にて矢作先生の還暦の祝賀会、2日も農会時報の起稿を行い、また、正副会長出席の下幹事会を開催し、8大農区代表運動委員召集を11日からと決めた。3、4日も農会時報の起稿、5日は幹事会を開き、時事問題の運動方針を協議、6日も幹事会を開き、来たる11日より運動に着手する諸問題を協議、また、米穀政策と系統農会の進展の原稿執筆、7日は終日在宅し、原稿の執筆等をした。

6月8日から10日まで帝農主催の道府県農会農業経営主任者協議会を開催した。協議事項は(1)農業経営改善指導事業進展に関する件、(2)生産統制に関する件、(3)米生産費調査に関する件、であった。また、引き続き、10日の午後より12日まで帝農事務所にて農林省主催の道府県農会農家経済調査主任者協議会が開催された。石黒農務局長が訓示を述べ、協議事項は(1)農家経済調査カード様式に関する件、(2)農家経済調査に地主の経済状況調査を増加する件、であった¹⁶⁾ 10日の日記に「午后二時半開会。農林省ノ会議トナル。石黒局長訓

16) 『帝国農会報』第21巻第7号、昭和6年7月、119～123頁。

示…大ニ官僚式ヲ發揮ス」とある。そして、12日に主任者協議会が終了した。この日の日記に「昨日局長ノ態度ニ引代へ、本日ハ一切ノ誤解モ解ケ意思疎通ノ状態ニテ散会シー同大ニ満足ス」とある。

6月11日から3日間、8大農区代表道府県農会長協議会が開催された。11日、各農区の代表として、山形の青木源三郎、長野の山本莊一郎、埼玉の石坂養平、愛知の松山兼三郎、岐阜の松岡勝太郎、滋賀の松原五百蔵、兵庫の長島貞、京都の大島国三郎、愛媛の門田晋、広島の麦生富郎、新潟の山谷与一、島根の岡本善久、等々が参集し、正副会長、幹事らと財政、行政、税制に関する件並びに最近の農政問題に関する件を協議し、次のような決議を行った。前者については(1)農林商工両省の合併は反対であること、(2)行政と農会の事業分野を明らかにし、農業の指導奨励は専ら農会が当るようにすること、(3)農業に対する補助金は減額せず、増額すること、(4)農業者の負担を軽減すること、後者については、(1)朝鮮および台湾米の移入制限、(2)硫安価格の最高価格を決定する法律の制定、(3)農家負債整理、(4)繭価対策、(5)鉄道運賃の引き下げを決議した¹⁷⁾ 翌12日、運動委員は民政党本部および安達内相を訪問し、郡農会廃止反対、農林商工両省合併反対等の陳情を行い、13日に運動委員は矢作会長とともに農林省を訪問し、町田農相、松村次官に面会し、陳情し、さらに政友会本部を訪問し、陳情した¹⁸⁾ 14日は全国町村長会依頼のパンフレットの原稿執筆、15日は運動委員とともに大蔵省を訪問し、田次官に陳情した。16日はパンフレットの原稿の執筆等、また午後6時より教育会館における農村青年指導に関する座談会に出席、17日はパンフレットの原稿を完成し、さらに「我国体ト小農制」の原稿執筆を始めた。18日は幹事会を開き、農村問題対策を協議した。19日は農会改造論を起草し、また正副会長出席の下、幹事会を開き、道府県農会長会議開催を協議した。20日は農会改造論の執筆、21日は大阪毎日依頼の農会事情の執筆、22日は農会改造論の執筆、首相官邸における国有

17) 『帝国農会報』第21巻第7号、昭和6年7月、1～4頁。

18) 同、117～119頁。

林野整理調査委員会に出席，23日も同委員会に出席，25日は八基村基本調査の編集，26日は正副会長出席の下，幹事会を開き，農林，商工合併反対および農会問題について，道府県農会長会議を開催することを決めた。27日は農業年鑑編集の協議，八基村基本調査等，28日も八基村基本調査等，29日は農業大学にて開催の全国農学校長会議に出席，30日は午後6時より農産物規格統一第1回協議会に出席した。

7月も温は種々業務，農林商工両省合併反対の運動を行い，また，出張した。1日は帝農幹事会を開き，道府県農会長会議の議案を協議し，また午後は工業倶楽部にて開催の貴族院議員の小作法研究会に出席，2日は幹事と農業団体統制問題を協議，3日は農業年鑑の編集等を行い，午後は農相官邸における国有林野整理調査委員会に出席した。4日は農林商工両省合併反対運動のために，農業各団体（帝国農会，中央畜産会，帝国水産会，産業組合中央会，帝国養蚕組合，帝国耕地協会，養鶏組合中央会，帝国馬匹協会，中央獣医学会等11団体）の協議を行い，規約その他を帝国農会が作成することを決定した。

7月6日より3日間，帝国農会は農林商工両省合併問題並びに農会問題に関する道府県農会長協議会を開催した。6日午前10時より矢作会長が挨拶をし，議題の(1)農林商工省合併問題に関する件，(2)農会問題に関する件，が協議された。前者は吉岡幹事が，後者は温が提案説明を行い，委員会付託となった。また，農会役員選挙に対する県当局の干渉が各地から報告された。翌7日，委員会報告の後，農林商工両省合併反対，農会の大改造反対（郡農会の廃止）の決議がなされた。また，農会役員選挙に対する県当局の干渉に関し，委員会が設けられた。そして，午後，運動員を5組にわけ，各方面に陳情し，温は松岡らとともに，民政党，都新聞，朝日新聞，日々新聞社を訪問，陳情した。8日は陳情委員7名と内相官邸に頼木民政党総務を訪問し，農林商工両省合併反対を陳情した。また，午後，農会役員選挙に関する官憲の干渉問題について決議した¹⁹⁾ 9日は農業各団体代表（帝国農会等11団体）が帝農事務所で会合し，農林商工両省合併反対を決議し，代表者は総理，内務，農林各大臣，大蔵政務

次官等を訪問，陳情した²⁰⁾ 10日は会長出席の下，幹事会を開き，農業各団体
会合の跡始末の協議等を行った。11日は八基村調査の編集，12日は農林商工
両省合併反対の理由書の執筆，13日は来宅の渋沢八基村長と会合をし，明日
の調査の打ち合わせを行った。14日，温は午前7時50分発にて埼玉県八基村
に出張し，渋沢町長らと同村の調査資料の蒐集及び負債問題の打ち合わせをし
て帰京した。15日は農林省の竹山属より農村計画策の集録を託され，また，
村上農政課長と農村計画問題の打ち合わせをした。16日は村上国吉代議士作
成の負債整理案を協議し，また，農村不況打開策として道路改修案について意
見の交換を行っている。この日の日記に「村上代議士来会，負債整理案ヲ受取
り意見ヲ交換ス。農村不況打開策トシテ一町村一万～二万円ノ道路改修案ニツ
キ意見ノ交換ヲナス」とある。後の時局匡救土木事業構想の萌芽である。

7月17日，温は午後9時55分上野発にて山形県農会大会に出席のために出
張の途につき，翌18日午前7時山形に到着した。10時より県会議事堂にて山
形県農会大会が開催され，1,700有余名が出席し，大会宣言および農林商工両
省合併反対，米蕪価対策，負債整理，農会問題等について決議した。実際は県
農会役員選挙に対する県の干渉への弾劾大会であった。この日の日記に「十時
ヨリ農会大会ニ出席ス。全県ヨリ千六，七百名来集。但シ，民政系ノモノハ出
席稀ナル由。表面ノ問題ハ現下ノ農政問題ナレドモ，事実ハ農会役員選挙ニ対
スル県干渉ノ弾劾の大会ナリ。政友会本部ヨリ東，東郷，片野三代議士出席。
午後政談会。民政党ヘモ交渉セシモ出席セズトノ回答ノ由。午前ハ宣言決議，
出席者意見ノ発表，自分ハ最後ニ単簡ノ挨拶ヲナス」とある。温は夜10時25
分発にて帰京の途につき，翌18日午前8時上野につき，帰宅した。19日は終
日在宅し，八基村基本調査の結論部分の執筆，20日も八基村基本調査の執筆
を行い，また，幹事を集めて山形県農会大会の報告を行った。21日は正副会
長出席の下，明日の道府県農会大会の打ち合わせをした。

19) 『帝国農会報』第21巻第8号，昭和6年8月，132～138頁。

20) 同，132頁。

7月22、23日の両日、帝国農会は農林商工両省合併問題に関して、前回（7月6～8日）の決議に基づき、第2次の道府県農会長協議会を開催した。23道府県の代表が出席して、熱烈な議論を行い合併反対を決議し、大会を開くことを決め、また、農林大臣に陳情を行った。この日の日記に「道府県農会長会議開催…。九州ハ佐賀一県、四国ハ高知一県、中国ハ岡山一県ノ出席。二十三府県出席…。前例ナキ会長会議。十一時開会…。農林商工合併反対ニ熱烈ナル議論アリ、農会大会開催ノ決議トナル。内部相談、来ル三十一日開会ト決シ、電報ニテ通知ス。本日ハ全員農林大臣ニ面会シ、他ハ面会シ得ズ」とある。23日は3班にわけ、民政党の富田総務、首相官邸の川崎書記官長、民政党の頼母木総務、安達内相、法制局武内長官、井上蔵相等を訪問、陳情した。温は富田総務に面会し、合併反対を陳述した。

7月23日、温は午後1時上野発にて福島県若松に出張の途につき、10時若松に着し、東山温泉に投宿した。翌24日午前8時若松発にて河波郡野沢町に行き、同郡農会のために午前10時より午後4時まで講演を行った。不景気のために、来会者の顔色が悪かった。この日の日記に「来会者業色アリ、一見経済ノ不良ヲ感ゼシム」とある。終わって、東山に戻った。25日、温は若松市にて開催の北会津郡農会並びに福島県農会主催の農業経営合理化研究会に出席し、午前10時より午後3時まで農業経営合理化に関する講演を行った。26日も研究会に出席し、質問に答え、午後1時20分若松発にて帰京の途につき、8時上野に着した。27日は終日在宅し、八基村調査の結論部分の執筆等。28日は在京評議員会を開催し、加賀山辰四郎、岡本英太郎、池田亀治委員出席の下、来る31日開催の農業団体連合大会について協議した。加賀山、岡本委員は「大会ニハ真実賛成ノ意ニアラザルガ如シ」であった。29、30日、幹事会を開き、大会の準備等を行った。

7月31日、農林商工両省合併反対の農業団体連合大会が東京赤坂三会堂にて開催された。矢作会長が挨拶し、また座長となり、大会宣言決議を行い、総理大臣や農林、大蔵等の各大臣、政党、新聞社を訪問、陳情した²¹⁾ この日の

日記に「農業団体連合（十一）大会ヲ赤坂三會堂ニテ開催…。七時半ヨリ出席順序等打合せ。十時頃八百余名ニ達シタルヲ以テ、十時二十分開会ス。上下空席ナシ。矢作氏ヲ座長ニ推シ、宣言決議…。直ニ各府県一名ノ実行委員ヲ挙ゲ九班ニ分レ、総理以下各大臣、行財政整理委員、各新聞社ニ陳情…。会場ニハ各団体ノ代表演説…。地方ノ代表演説ヲナス。午後三時頃、実行委員ノ報告ヲナシ、更ニ演説ヲ続ケ、五時散会ス。順調ニ盛大ニ修了。弁当千余ヲ注文シ、少シ余ル」とある。

8月も温は種々業務を行い、出張した。1日は農政協会常務員会を開催し、菅野、松岡、麦生、大島、松山、原、南部及び臨時員として福井、門田らが出席し、農政協会の根本問題を議論し、一層帝農が力を注ぐことを決めた。2日は終日在宅し、中堅青年講習の準備、3日は八基村調査の原稿を脱稿、4日は新潟、兵庫、愛媛への出張準備等をした。

8月5日、温は午前7時5分上野発にて新潟県に出張の途につき、午後3時44分田口に着し、赤倉温泉に宿泊した。6日、温は妙高小学校にて開催の新潟県農会主催の夏季大会に出席し、午後1時半より4時半まで農業経営について講演を行った。翌7日も午前8時半より12時20分まで講演し、午後2時田口を出発、3時38分直江津発にて兵庫に向かった。8日午前7時38分明石に着し、錦明館に投宿。9日温は明石中崎遊園地市公会堂にて開催の兵庫県農会主催の郡市町村農会技術員講習会に出席し、来会の240余名に対し、午後1時より3時まで農業経営の指導について講演を行った²¹⁾。翌10日も午前8時半より12時20分まで講演し、神戸に出て、午後3時40分紅丸にて愛媛に向かった。

8月11日、温は午前4時高浜に着き、自宅に戻った。12日から16日まで松山農学校にて開催の愛媛県農会主催中堅青年講習会が開催された。講習生は男58、女27人で松山高等学校の北川淳一郎や温らが講師を務めた。温は12日は午前9時より2時間、13日は午前9時より午後3時まで、14日も午前9

21) 『帝国農会報』第21巻第9号、昭和6年9月、125～129頁。

22) 同、121頁。

時より午後3時まで講演した。15日は午後3時より桑原小学校に行き、有志100余名に対し2時間半ほど講演をし、農学校に戻り、講習生と夜間の作業にも参加した。16日は午前9時より2時間ほど講義を行い、午後証書授与式を行った。17日は1日休養し、18日は伊予郡郡中町に行き、実業学校にて開催の伊予郡農会主催の講演会に出席し、来会の青年、技術者有志100余名に対し、午前10時より午後3時まで講演を行った。19日は県庁、県農会、県試験場を訪問、20日は終日在宅し、野口文夫、武智二郎、中川明厚らの訪問客に應對した。

8月21日、温は午後5時石井発、12時高浜発紫丸にて上京の途につき、翌22日11時半神戸に着し、午後6時の3等寝台にて東京に向かい、23日午前6時横浜につき、娘綾子の結婚予定相手の小野基道に会い、帰宅した。

8月24日から温は再び業務を始めた。24、25日は書類整理、種々の手紙を出し、26日は正副会長と農林商工合併問題、農会問題等の対策を協議し、また農林省委託の農業基本調査書の検閲等。なお、この日、浜口雄幸前首相が死去した。この日の日記に「浜口雄幸氏逝去」と記している。27日は農業経営成績パンフレットの検閲、農業年鑑の編集等、28日も農業経営パンフの検閲等。29日は農業基本調査書類の検閲を行い、また、浜口前首相の告別式に参列した。日記に「午后二時日比谷公園ニ於ル濱口前首相ノ告別式ニ臨ム。十数万ノ人推寄せ、容易ニ入場スルヲ得ズ。暫ラク入口ニ推合ヒ、漸クニシテ入ルヲ得タリ。大隈侯以来ノ告別式ニテ、人格ノ力ノ偉大ナルヲ痛感セラル」とある。31日、小野基道が温宅を訪問し、禎子と3人で談話し、温は綾子の結婚を決断している。

9月、温は種々業務を行い、また、出張した。1日、農業基本調査書の検閲を行い、また、午後6時より中央亭にて開催の全国米穀販売購買联合会（5月25日認可）の開店披露会に出席した。2日は終日農業基本調査書の検閲を行った。3日は農村計画書類の検閲、4日は農会時報の原稿執筆等、5日は農業経営の原稿等、6日はキング10月号の原稿等、7日は農村計画書類の検閲、ま

た、経営審査常置委員会を開催。8日は財政経済時報の原稿執筆、9日農会時報の原稿執筆、小作法研究会に出席等。10日は財政経済の原稿執筆等を行った。

9月10日、温は午後9時50分上野発にて山形県に農会事件仲裁及び経営視察のため出張の途につき、翌11日午前7時山形に着した。この日は県庁に行き内務部長を訪問し、農会紛擾問題の状況を聞き、ついで県農会長の青木源三郎を訪問し、さらに飽海郡酒田に行き、本間光勇氏を訪問し、次の県農会長引き受けにつき懇談し、午後5時40分酒田発にて鶴岡市に行き、宿泊。12日は東田川郡渡前村新屋敷実行組合に行き、実行組合経営批判会に出席し、温も1時間半ほど経営への批判論評を行った。終わって、鶴岡市に帰り宿泊。13日は西田川郡農会議員伊藤健吉、佐藤弥太右衛門等に面会し、山形県農会問題について懇談。14日は東村山郡千歳村に行き、長谷川久次郎氏の経営を視察し、その批判会に出席し、温が総評を述べた。なお、この日、山形県農会総会が行われ、本間会長は決まったが、副会長人事は妥協がなされず、「先日来ノ斡旋功ヲ奏セズ」の状況であった。15日は東置賜郡屋代村に行き山川清次郎氏の経営批判会に出席し、終わって、午後11時発の汽車にて帰京の途につき、翌16日午前8時上野に着し、帰宅した。

9月17日、温は出勤し、農村計画書類の校閲を行い、また、農林省に出頭し、石黒局長、村上課長に山形県農会問題の報告等を行った。18日は八基村基本調査の校閲等を行った。

9月18日、満州事変が勃発した。温の日記に「満州事変。夜半支那兵ガ満鉄柳条溝陸橋ヲ爆発シタルニ端ヲ発シ兵ヲ交ユ」と記している。翌19日の日記に「満州事変号外ヲ読ムモ、戦争気分少シモ動かズ」とある。

9月20日、温は東京朝日依頼の原稿の執筆を行い、また、午後3時より渋沢敬三郎にて八基村調査披露座談会に出席、21日は農村計画書類の検閲等、22日も農村計画書類の検閲を行い、また、副会長出席の下、明年度帝農予算の基本条項を決定、23日は帝農幹事会を開き、農家負債整理案等を協議、また、午後在京評議員会を開き、岡本、池沢委員出席の下、明年度帝農予算その

他を決定した。また、この日前帝農幹事の福田美知が来会し、来る帝農総会の役員選挙（会長、副会長人事）について意見交換を行った。24、25日は風邪のため、休養、欠勤。26日、帝農事務所にて、全国評議員会を開催し、桑田、岡本英太郎、池田亀治、池沢正一、八田宗吉、山田歛委員ら出席の下、明年度予算、総会提出議案等を決定した。28日も評議員会を開き、午後1時半議案終了したが、農林商工両省合併問題が切迫していたため、会長帯同して、首相、内相、蔵相を訪問し、合併反対を陳情した。

9月28日、温は0時20分東京発にて静岡県に出張の途につき、この日は沼津に下車し、宿泊した。29日は江尻（清水市）に行き、隣接の庵原郡袖師村の小学校にて開催の庵原郡及び清水市の青年、一般農家500余名に対し、午前11時半より午後3時半まで講演し、4時20分江尻発にて帰京し、午後9時帰宅した。

10月も温は種々業務を行い、出張した。また、本月帝農総会が開催され、民政党の横槍で矢作会長が辞任を余儀なくされた。1日は農村計画書の検閲等、2日も農村計画書の検閲を行い、また、協調会依頼の原稿執筆等をした。3日は国有林野整理委員会に出席した。

10月4日、温は午前10時東京発にて佐賀県に出張の途についた。車中、温は著述の原稿執筆している。翌5日午前8時40分門司につき、10時半の汽車にて佐賀に向かい、0時20分到着し、宿泊した。6日、温は教員会館に行き、佐賀県農会主催の郡町村農会技術員講習会に出席し、午前9時より午後4時まで講義を行った。7、8日も午前8時より午後4時まで講義を行った。9日、温は午前11時佐賀発にて博多に向かい、12時半博多に着し、ただちに福岡県庁にて開催の福岡県農会主催の青年篤農家農業経営改善指導会に出席した。翌10日、午前10時より正午まで温が講演を行った²³⁾ 11日は糸島郡怡土村の生田清六氏の大経営、前原町由比の末崎豊次郎氏の共同経営を視察し、博多に戻

23) 『帝国農会報』第21巻第12号、昭和6年12月、117頁。

り、午後8時発にて兵庫県に向かった。12日午前11時三宮に着し、大野支店に投宿した。この日、増田昇一幹事が特殊任務—安藤副会長が辞任のため、副会長人事の件—を帯びて、温に会いに来た。この日の日記に「幹事(増田)特殊用務ヲ帯ビテ来兵。密会、密談。后六時三宮ニテ増田幹事ト会合シ、宿ニ同道投宿ス。右ハ安藤副会長留任セザルコト确实トナリ、今回ノ会合ノ対策ノ打合せノタメナリ。安藤氏辞任トナレバ、帝農役員選挙ノ問題ハ混雑セン」とある。13日、兵庫県農会主催の緊急関西府県農会懇談会(兵庫、京都、大阪、奈良、三重、愛知、滋賀、岐阜、鳥取、岡山、広島、山口、和歌山、香川、愛媛、高知、徳島)が開催され、深刻な農村不況への応急策、米価対策、硫安輸入制限、今後の農政運動等が協議された²⁴⁾。帝農側から温が出席したが、帝農に対し、厳しい質問がなされた。13日の日記に「産業会館楼上ニテ、関西二府十七県農会役職員及議員懇談会ヲ開催シ、出席。静岡県ハ欠席。山脇廷吉氏ヲ座長ニ推シ、協議会ヲ開ク。帝農ニ対シ質問又ハ詰問多カリシガ一切応酬ス。四時閉会、五時ヨリ平和楼(支那料理)ニテ懇親会アリ。開会前、永島、麦生、大島三君ヲ大野屋支店ニ行き増田幹事ニ面会セシム。蓋シ、同幹事ノ使命ハ一本ノ手紙ニテ事足ル事項(安藤副会長辞意強固ノ件)」とある。14日も懇談会が続いた。強硬意見が出て、2府16県農会の代表者が上京し、当局に運動することを決定した。この日の日記に「午前九時ヨリ開会。二部ニ分レ委員会ヲ開ク。硫安問題ト帝農役員選挙問題ヲ中心トス。硫安問題ニ対シ、増田幹部ノ手紙ガ却テ議論ノ種子トナリ、一層強硬論出デ、結局十八日二府十六県農会ヨリ各一名代表者出席シ当局ニ運動スルコト、ナル。右ハ直ニ電話ニテ帝農ニ通ス。役員問題ハ具体化セズ。午后五時閉会ス」とある。終わって、温は午後8時神戸発に乗り込み、帰京の途についた。

10月15日、温は午前10時半帰宅し、その後帝農に出勤し、副会長出席の下、幹事会を開き、関西府県農会の運動員上京に関し、全国農会長会は開かず

24) 『帝国農会報』第21巻第11号、昭和6年11月、94頁。

に、関西府県農会の運動のみとすることを決めた。16日、温は農林省に松村、西村両次官を訪問し、関西府県農会の状況及び硫安問題について話し、また、石黒農務局長に面会し、硫安問題、帝農役員問題について懇談した。17日は地代論の執筆、18日、関西2府17県農会の代表12名が上京し、帝農事務所にて正副会長、幹事に面会し、松岡、長島が神戸における決議事項を陳情し、運動方針を協議した。19日、運動委員は農林大臣、商工大臣、政友会、民政党本部に訪問し、硫安輸入許可制反対を陳情した。しかし、政府は硫安輸入許可制をすでに決定し、阻止運動は実現しなかった²⁵⁾ その夜、7時より曙にて農政協会理事会を開き、松岡、松山、麦生、原、山崎、大島出席の下、総会の議案を協議した。20日は文部省に三辺地方局長らに面会し、郡農会廃止問題について意見を交換した。21日は八基村調査の序文を執筆、また、農村計画書類につき、農林省に送付した。22日は桑田熊蔵特別議員（評議員）を訪問し、関西における府県農会懇談会にての役員改選問題の空気（民政党が矢作会長を政友会寄りとして交代させようとしていることへの反発）を説明し、役員改選問題に対する意見を聞いた。桑田は「非常ニ心配サレ居ルモ、具体案ハ示サズ」であった。23日、温は西ヶ原に安藤広太郎副会長を訪問し、帝国農会役員問題について協議した。副会長を辞任する安藤は後任に特別議員の月田藤三郎（帝大農科大学卒業、農商務省農政課長等を経て、退官し、帝国農会特別議員を務めていた）を後任に推薦する意思であり、温に同意を求め、温は了解した。この日の日記に「西ヶ原ニ安藤氏ヲ訪問シ、帝農役員問題ニ付協議ス。月田藤三郎氏ヲ副会長候補ニ推薦ノ意志ノ由ニテ同意ヲ求メラレ、即座ニ賛同ス」とある。安藤副会長が月田を推薦したのは、「会長、副会長のうち、1名は農学士でなければならない」²⁶⁾ との考えからであった。24日、温は矢作会長宅を訪問し、総会対策の協議を行った。この日の日記に「出勤。途次、矢作会長ヲ其邸ニ訪問シ、関西府県会長会以来ノ来ル総会ニ対スル各方面ノ情報ヲ話

25) 『帝国農会報』第21巻第11号、昭和6年11月、94～95頁。

26) 『帝国農会史稿 記述編』471頁。

シ、会長ヨリ古在、桑田両氏トノ交渉ノ状況ヲ話サレ、総会对策ノ協議ヲナス」とある。25日は終日在宅し、実業日本社依頼の原稿を執筆した。26日は午後1時より在京評議員会を開催し、総会提出議題を協議した。この時、会長候補の選考で紛糾した。それは、民政党が同派に所属する評議員を招いて、極力、「政友会系人物」と目されていた矢作会長をやめさす働きかけを行い、また、この日、町田農相は自ら牧野忠篤子爵を訪れ、帝農会長就任を懇請していたからであった²⁷⁾。27日、全国評議員会が開催され、総会提出議案を審議した。この日、温は役員選挙に関し、桑田熊蔵、山田歙の両元老と懇談し、また、評議員会后、安藤副会長、岡本英太郎、山田歙らとも協議した。この時、初めて月田藤三郎が副会長候補の議題に上った。この日の日記に「全国評議員会。明日ヨリノ総会提出案件ヲ審議ス。桑田、山田両元老ト役員選挙ニ付懇談ス。閉会後再び安藤、加賀山、岡本、山田及幹事ト明日総会ノ打合ヲナス。副会長候補ヲ月田藤三郎氏ト初メテ協議題ニ上ル。今夜東京会館ニテ、民政党ノ山道幹事長ノ名ヲ以テ民政党帝農議員ヲ招待ス。山田歙氏モ加ハル」とある。

10月28日より4日間、第22回帝国農会通常総会が帝農事務所にて開催された。28日午前11時開会し、矢作会長の挨拶、吉岡幹事が4月以降の会務報告を行い、その後、会長選挙に入ったが、下相談のため、一旦休会となり、午後2時開会し、動議により副会長選挙と合わせて、詮衝委員12名（山田歙、森円蔵、小野寺篤四郎、田中喜太郎、小林嘉平治、井上英次郎、恒松於兔二、山田庄市、中島忠六、高田耘平、八田宗吉、加賀山辰四郎）を選び、詮衝に入った²⁸⁾。民政側は政府側（町田農相）と策動し、会長牧野子爵、副会長岡本英太郎が猛運動をしたため、開会前までは現状維持が大勢であったが、形勢急転し、結局、詮衝委員会ではまともならず、閉会となった。閉会后、詮衝委員の折衝が続き、午後8時頃政友会の八田宗吉の譲歩により、牧野会長、月田副会長と決まった。この日の日記に「午前十一時開会…。諸般ノ報告アリ。終テ役

27) 『帝国農会史稿 記述編』469～470頁。

28) 『帝国農会報』第21巻第12号、昭和6年12月、14～15頁。

員選挙下相談ノタメ休会トス。午後二時開会。各農区ヨリ一名ヅ、特別議員ヨリ三名ノ詮衝委員ヲ挙ゲ協議ス。昨夜来、民政側、政府筋ト策動シ、牧野子爵（長）ト岡本英太郎（副）推薦ノ猛運動ヲナシ、開会前マデ現状維持ノ大勢ナリシガ形勢急転ス。午後四時開会。委員ヨリ詮衝未了ヲ告ゲ閉会トナシ、詮衝委員ニテ折衝ヲ続ク。八時頃ニ至リ、八田氏ノ讓歩ニヨリ牧野氏会長、月田氏副会長ト決ス。幹事一同、矢作前会長宅へ挨拶ニ行ク。八田氏、安藤氏会ス」とある。29日は総会の2日目で、役員詮衝委員会の結果が報告され、議題となった。しかし、現状維持の政友派と牧野会長、岡本副会長を推す民政派が激しく対立し、人事は紛糾した。結局、矢作会長の推薦によることになった。この日の日記に「午前十時ヨリ開会ノ筈ナリシガ、会長問題紛糾シ、現状維持派、牧野推薦派ノ交渉マトマラズ、更ニ副会長ハ政府筋ハ岡本英太郎氏ヲ推シ、政友派、特ニ特別議員派ハ月田氏ヲ推シ、交渉ノ結果、午後三時頃ニ至リ、会長牧野忠篤、副会長月田藤三郎ト決シ、右ハ矢作旧会長指名ノ形式ニヨリ決定スルコトナリ。矢作会長ヨリ右指名シ、満場一致ニテ決定。夫ヨリ各議案ノ議事ニ入り、一時間程ニテ一読会ヲ終リ、委員付托トス」とある。30日、総会開始前、新正副会長が帝農職員を集めて挨拶を行い、また、矢作前会長も辞任の挨拶をした。温は感無量であった。この日の日記に「自分ハ矢作博士ノ懇請ニヨリ大正十年五月就任シ、以来師事シタルガ、今ハ感無量」とある。その後、10時から総会の3日目、各部委員会が開催され、温は米穀政策および負担軽減の建議委員会に出席し、終日説明した。終わって、夕刻、幹事4人（温、増田、高島、吉岡）にて矢作、安藤の旧正副会長宅を訪問し、挨拶をした。31日、午前10時半より総会が開催され、予算案、農林大臣諮問案、各種建議案等が可決、決定された。

さて、この昭和農業恐慌下、第22回帝国農会総会で決議された諸建議は、「米穀政策ニ関スル建議」「農家負担軽減ニ関スル建議」「農家負債整理ニ関スル建議」「農家生産物輸出促進ニ関スル建議」「農産物関税ニ関スル建議」「農業団体補助金ニ関スル建議」「郡農会ニ関スル建議」「地方庁ノ勸農行政ニ関ス

ル建議」「硫安問題ニ関スル建議」で、多岐にわたっていた。このうち、「米穀政策ニ関スル建議」は次の如くであった²⁹⁾

「昨秋来米価ノ大暴落ニヨリ農家ハ極度ノ窮迫ニ陥レルニ際シ、本年ノ収穫予想平年作以下ナルニ拘ハラス、米価ハ依然低落ヲ続ケ米穀法発動ノ基礎タル最低価格ニスラ達セサルノ状況ニシテ農家ノ苦悩実ニ言語ニ絶ス。

依テ政府ハ米穀政策トシテ左ノ如ク応急、恒久ノ対策ヲ実現シ、以テ農家救済ニ資セラレンコトヲ望ム

甲 応急策

- 一、政府ハ今回百万石ノ米買上ヲ決定セラレタルニ拘ラス、米価ハ却テ低落ヲ来セルノ状況ナルヲ以テ米穀法ノ精神ニ則リ速ニ買上ヲ続行セラレタキコト
- 二、外米輸入税引上期間ヲ更ニ延長セラレタキコト
- 三、農家ノ売急キ防止ノ目的ヲ以テ、特ニ米穀ニ対シ低利資金ヲ融通セラレタキコト

乙 恒久策

- 一、第五十九議會ニ於テ改正セラレタル米穀法ノ運用ニ関シ、昭和七年度以降ハ其ノ産米価格ノ最低基準決定ノ基礎トシテ米穀生産費ヲ加ヘラレタキコト
- 二、朝鮮、台湾ヨリノ移入米数量ノ増加カ内地米価ニ著シキ影響ヲ及ホスニ至リタルハ実ニ顕著ナル事実ナルヲ以テ適當ナル方法ニ依リ内地ト朝鮮、台湾トノ米穀政策ノ統制ヲ図リ以テ米価ノ維持ニ寄与セラレタキコト」

この米穀政策についての建議は、内地米の更なる買上げ、外米輸入税の存続、低利資金の融通、内地米買上げ基準について米穀生産費を要求し、また、植民地米について、前年度は月別平均移入の微温的な建議に代わり、植民地米

29) 『帝国農会報』第21巻第12号，昭和6年12月，5頁。

の移入制限を求めたものであった。

11月も温は種々業務を行い、また、出張した。1日は午前10時20分より帝国農政協会総会を開催した。28名の委員が出席し、活発な議論がなされた。この日の日記に「農政協会総会開催。土屋代議士ヲ初メ、議員多数出席シ、例年ヨリ真面目ニ協議ヲナス。岡田庄平氏ノ動議ニヨリ、委員ヲ挙ゲ、農政協会ノ更世〔更生〕発展策ヲ考究スルコト、ナリ、左ノ諸氏ヲ指名ス。宮城県笹森、茨城県谷津、千葉石井、新潟岡田、神奈川飯田」とある。2日は渋沢栄一子爵重態の報を受け、飛鳥山の別邸を訪問した。

11月3日、温は0時40分東京発にて愛知県に出張の途につき、午後4時40分名古屋に到着し、シナ忠支店に宿泊した。4日、温は西春日井郡坂井村に行き、同郡町村農会総代及び役職員会に出席し、午後1時から3時まで来会の400余名に対し、農業経営と農政について講演を行い、名古屋に戻り、宿泊。5日は午後海部郡津島町に行き、同郡町村農会総代及び役職員会に出席し、午後3時より4時半過ぎまで講演し、名古屋に戻り宿泊し、翌6日午前10時55分名古屋発の特急にて帰京の途につき、午後4時50分東京に着し、帰宅した。

11月7日以降、温は種々業務を行った。7日は月田副会長出席の下、幹事会を開き、北海道、青森の凶作実況視察等を協議した。8日は終日在宅し、地代論の執筆、9日は昭和6年度の優良郡市町村農会の表彰文を作成し、また、月田副会長出席の下、幹事会を開き、常務についての打ち合わせを行った。10日は表彰文の作成、蚕業新報依頼の原稿の執筆等を行い、午後7時から日比谷山水楼にて農政記者の招待会を開催した。11日は渋沢栄一子爵逝去(92歳)のため、渋沢邸を訪問、12日は八基村基本調査の補足、表彰農会の選考会等をした。13日は農林省を訪問し、荷見米穀課長と岡本参与官に面会し、11月中に米穀買上げをなすよう強要し、また、対馬技師に面会し、米生産費計算に小作料を10ヶ年平均米価にて換算するように交渉した。14日は農林省に行き、石黒農務局長を訪問し、米穀買上げを要望した。また、月田副会長とともに牧

野会長を訪問し、会長に対し、16日から開催の米穀委員会にて米穀買上げを主張するように依頼したが、会長の態度は不明であった。この日の日記に「農林省ニ農務局長ヲ訪問シ、米買上問題ニツキ希望ヲ述ブ。局長ハ買上ニ意アリ。月田副会長ト西大久保ノ牧野会長邸ヲ訪問シ、十六日ノ米穀委員会ノ開催并ニ同会ニテ米買上ノ主張及従来米ニ対スル農会ノ歴史ヲ述ベ、買上ニ関スル主張ヲ依頼シ〔タガ〕、会長意志伺ヒ難シ」とある。15日は青山斎場における故渋沢子爵の告別式に出席、16日は本日開会の第33回米穀委員会のため、山田歛氏と米穀買上げ要求の打ち合わせ、また、牧野会長、池田氏とも同問題について、協議した。なお、米穀委員会では、米穀輸入関税を現行のまま一年間延長することを決めたが、第2次米穀買上げは決めなかった³⁰⁾ また、この日、在京評議員会を開催し、昭和6年度の表彰優良郡市町村農会、北海道、青森県の凶作対策、前正副会長記念品贈呈、米買上げ問題を協議した。17日は八基村調査の編集等、18日は牧野会長宅を訪問し、米穀委員会の状況を聞いたが、町田農相は米穀買上げの決心を述べたが、11月中の買上げには難色を示したとのことであった。19日は終日在宅し、地代論の執筆、20日は町田農相、牧野会長に至急米穀買上げのために米穀委員会を開催するよう督促した。21日は農業経営設計書の検閲等、22、23日は終日在宅し、地代論の改稿等を行った。24、25日は帝農にて農業経営審査会を開催し、昭和7年度農業経営設計書（197戸）の審査を行った³¹⁾ 26日は禎子を伴い、新宿御苑の観菊会に出席。27日は正副会長出席の下、幹事会を開き、青鹿副参事より青森県、北海道の凶作視察の報告を受けた。大正2年凶作以上の惨状とのことであった。28日は八基村調査の序文の執筆等、29日は農会時報の年頭所感等、30日は八基村調査の序文の執筆等を行った。

12月も温は種々業務を行った。1日は八基村調査の序文の執筆等をしたが、神経痛のため午後2時より帰宅した。2～6日は神経痛のため欠勤し、電気療

30) 『帝国農会報』第21巻第12号、昭和6年12月、132頁。

31) 『帝国農会報』第22巻第1号、昭和7年1月、133頁。

養を行った。なお、温が病欠欠勤中の5日に第34回米穀委員会が開催され、米価調節のため昭和5年産及び6年産の内地米を150万石買上げることを決めている³²⁾。7日から温は出勤し、この日、副会長と米買上げについて意見の交換を行った。8日は欠勤し、海南新聞、愛媛県農事報の原稿執筆等、9日は八基村基本調査の手入れ等。

12月10日は第8回米穀調査会総会が首相官邸にて開催され、若槻会長、町田副会長、各委員が出席し、温も幹事として出席した。総会では諮問第3号「朝鮮米の内地移入の統制に関して執るべき方策如何」（朝鮮米移入の月別平均化以外に執るべき方策）、第4号「米穀法第3条の規定による許可に関し執るべき方策如何」（外米輸入の許可条件）、第5号「米穀の数量調査の改善に関し執るべき方策如何」（米穀の産額、朝鮮、台湾よりの移入高、内地在米高の正確な調査方法）が出され、若干の質疑の後、諮問案は17人の特別委員会に託された³³⁾。11日は午後米穀調査会の特別委員会があり、出席した。

12月11日、満州事変が政界に波乱を呼び、若槻民政党内閣が総辞職した。それは、内相の安達謙蔵が政友、民政両党の協力内閣を主張したため、若槻が安達の辞職を求めたが、拒否され、閣内不統一で総辞職となった。この日の日記に「安達内相、協力内閣提議ノタメ内閣総辞職トナル」とある。

12月12日、帝農に青森県会議員5名が来会し、牧野会長、月田副会長及び幹事と面会し、青森県の凶作救済に対する陳情を聞いている。なお、この日、組閣の大命が犬養毅政友会総裁に降りた。日記の欄外に「組閣の大命、犬養政友会総裁に降る。午後八時参内」とある。

12月13日、犬養政友会内閣が成立した。温は犬養首相や閣僚に祝辞を送っている。この日の日記に「政友会単独内閣成立。不取敢、犬養総理、床次、鈴木、鳩山、三土、高橋、秦、前田、山本氏へ祝電ヲ発送ス」とある。14日も新内閣の砂田、東郷、安藤3政務官に祝辞を発している。

32) 『帝国農会報』第22巻第1号、昭和7年1月、128頁。

33) 同、127～128頁。

12月15日午前11時より、帝農は事務所にて、第1回肥料調査委員会を開催し、矢作栄蔵、佐藤寛次、千石興太郎、麻生慶次郎、石坂養平らの委員、農林省から山中肥料課長、川崎技師、帝農から正副会長、幹事の出席の下、「今回の硫安輸入許可制度に対し農会として採るべき方策に関する件」を協議し、小委員会を設けて研究することにした。16日は実科問題で文部省を訪問し、また、農林省に行き、石黒忠篤新農林次官に挨拶。17日は雑事、18日は小野基道の見舞い、19日は農林省に行き、米穀課長と米生産費問題について協議、また、副会長出席の下幹事会を開催、20日は内外財界、実業日本の原稿執筆等、21日は帝国農政協会の委員会を開催し、松山、麦生、原鉄五郎出席の下、幹事らと更生策について協議した。21日は農業経営審査常置委員会を開催し、設計書の審査を行い、承認した。また、農政協会の委員会を開き、明年道府県農会長会議前後に開会することを決めた。23日は矢作、安藤前正副会長を招待し、謝恩の午餐会。24日は農林省に出頭し、砂田政務次官らに挨拶。

12月25日午前9時東京発特急にて帰郷の途につき、午後5時20分大阪に下車し、すみれ丸に乗船し、翌26日午前9時40分高浜に着き、県庁、県農会により、帰宅した。27日は終日在宅した。この日、小作米の件について、小作側（日野道得）と地主側（大西健多、万福寺）の双方から意見を聞いている。小作側は小作料2割減額の要求であった。28日は県庁に出頭。29日は原稿執筆。また、この日、地主側の大西、万福寺が来会し、小作料2割減額の意味なきことを回答している。30日は種々買物、また、小作人日野を招き、地主側の意向を伝えている。31日は越年の準備をした。

第2節 講農会、東京帝国大学農学部実科独立運動関係

温は講農会会長を続け、また、実科教育内容の改善および実科独立運動に取り組んだ。その結果、本年漸く大蔵省に実科独立予算が認められた。

まず、実科内容の改善について。2月14日、温は駒場交友会副会頭・原鉄五郎宅に行き、宗正雄教授、渡邊侯治、谷口俊一（大正10年実科卒）らと会

談し、実科改善には佐々木喬農場長を更迭しなければ根本的に改善されえないとの結論に達している。21日に温は原とともに大学に行き、古在由直前総長と町田氏を訪問し、実科改造につき、懇談した。また、26日には駒場に佐々木農場長を訪問し、実習改正問題について協議したが、佐々木教授から実習改正の具体案の作成を要請された。3月1、2日、温は実科実習改善案を作成、4日には谷口と、5日には宗教授、谷口と協議した。この時、学生の農場長不信任がでており、温も賛成している。この日の日記に「宗正雄教授、谷口俊一君来宅。実科農場改善ニ関スル協議ヲナス。学生ノ農場長不信任提出ニ賛同ス」とある。6日には実科の学生、須賀田らが来宅し、実習改善に関する嘆願書について協議した。また、温は実習改善に関する具体案を佐々木教授に書留にて送付した。8日、谷口俊一が来会し、学生の嘆願書について、温は総長にではなく、農学部長のみに提出するよう求めている。14日、宗教授が来宅し、各教授に嘆願書をだすことに承諾を求められ、反対したが、遂に承諾した。この日の日記に「宗先生来宅。実科問題ニツキ懇談。教授ニ書面提出ノ承諾ヲ求メラレ、相当争ヒシモ其熱心ニホダサレ、賛意ヲ表ス。蓋シ今後心配」とある。15日、谷口俊一、須賀田らが来宅し、各教授に書面提出についてはやめるよう説得し、16日にも運動の緩和を求めた。21日、駒場に行き、宗教授、藤巻雪生、谷口俊一と農場長更迭問題を協議した。藤巻が更迭に強硬意見であった。

実科独立運動について。6月22日午後6時より帝農事務所にて駒場交友会幹事会を開き、13名が出席し、実科独立問題について協議し、29日に帝農にて駒場交友会を開催した。そして、7月2日、温は中村理事、奥野幹事と文部省を訪問し、河原会計課長、赤間専門学務局長、木村実業局長に面会し、実科独立予算の計上を陳情した。この日の日記に「中村君、奥野君ト文部省訪問。河原会計課長、赤間専門学務局長、木村実業学務局長ニ面会。実科問題ニ付、本年モ例年ノ如ク予算提出ト文部省ノ態度ニツキ希望ヲ述べ意見ノ交換ヲナス」とある。7月5日、午後1時より帝農にて交友会総会を開き、運動方針を

協議し、臨時運動委員の召集を決定した。21日には、地方の委員が上京し、西大路会頭、原副会頭が委員を率い、21、22日の両日、文部省、大蔵省を訪問し、田中文部大臣、田政務次官らに陳情した。8月2日には原、中村、奥野が井上蔵相を訪問し、陳情した。また、古在前総長が病軀をおして、2日より15日まで連日大蔵省を訪問し、井上蔵相に陳情した。古在はその当初に於いては実科廃止論者であったが、最後には実科同情論者となり、頑強な井上蔵相に働きかけたのだった³⁴⁾ 8月28日にも駒場交友会幹事会を開き、西大路、中村、藤巻、渡邊ら12名が集まり、運動を協議し、9月5日にも交友会幹事会を開き、西大路、原、藤巻、渡邊ら12名が集まり、運動方針を決定した。温は麻生学部長の担当となり、9日駒場に麻生学部長を訪問、陳情した。また、9月、原、中村、奥野は文部、大蔵当局に交渉した。そして、10月、文部省予算に実科新営費として、実科独立予算が計上された(日にち不明)。10月21日、駒場交友会幹部会を開き、実科問題の運動経過を報告し、今後の対策を協議した。そして、ついに11月大蔵省にて独立予算45万円が承認された(日にち不明)³⁵⁾ しかし、不幸にして、民政党内閣は12月11日総辞職し、実科独立案は存亡の危機になった。だが、組閣早々の犬養内閣に働きかけ、漸く予算案に盛り込まれた。12月23日午後5時より交友会幹事会開催。実科独立予算成立の状況を報告した。

第3節 家族のことなど

家族関係では、長女の末光清香(明治28年3月21日生まれ、35歳)は末光家で子供3人(照香、権一郎、満子)を育てている。

次女の禎子(明治35年2月2日生まれ、28歳)は、温と同居し、作家として活動し、戯曲、小説を多数発表し続けている。禎子に中川明厚との結婚の話があったが、進展しなかった。

34) 駒場交友会『母校独立運動記念号』昭和11年、293～298頁。

35) 同、350～351頁。

4女の綾子（明治41年10月1日生まれ、22歳）は、昭和4年3月に帝国女子専門学校を卒業し、引き続き、東京に居たが、本年4月愛媛の実家に帰郷した。その綾子に縁談が進んだ。相手は新居郡選出の元衆議院議員小野寅吉の次男、小野基道（明治37年2月17日生まれ、この時27歳）である。基道は横浜の神奈川病院に勤務していた。愛媛に帰郷中の8月19日、温は県庁に行き、栗林義春、宮崎清治に面会し、綾子と基道の縁談について依頼した。21日、温は上京の途についたが、23日横浜に下車し、神奈川病院に基道と初対面した。この日の日記に「午前六時横浜着…。小野基道君待合セ居り、神奈川病院ニ行ク。…小野君トハ初対面ナレドモ、結婚問題ニ付宮崎君ヨリ其意ヲ通シアル筈ナルヲ以テ、互ニ或意味ヲ含シテ対談ス。一時間余リ話シタルモ、別ニ不快ヲ感ジタルコトナシ。大体醇良ナル好青年ナリ。尚十余町隔リタル分院ニ行き、談話ヲ続ケ、患者ノ室ヲ巡視ス。脳病者ガ将棋ヲ指シツ、アリシ。来ル三十日、東京ニ出テ訪問スルトノコトニテ之ヲ約シ、横浜駅ニ出テ帰宅ス。十時過ナリシ」とある。31日に温宅に基道が訪問し、温は禎子とともに面会した。良い印象で、結婚の決心をしている。この日の日記に「小野基道君来宅。一昨日ノ手紙ノ行違ニテ一昨夜上京セシ由…。禎子ト三人ニテビールヲ飲ツ、二時余リ談話シ帰ル。本日ノ会談ニ於テモ、淡白ニテ義侠的気分ノ豊ナ人物ラシ。禎子ノ意見モ談合進行ニアリ。自分モ愈決心シ、直ニ手紙ヲ認メ、岩子ニ決心ヲ通ス」とある。そして、9月6日に仲介の栗林義春へ縁談承諾の手紙を出し、9日に小野基道にも縁談了解の手紙を出した。24日に小野家からも結婚承諾の正式の申し込みがあった。だが、その後、12月小野基道が病気になり、結婚を躊躇した。12月10日に禎子が入院中の基道を横浜脳病院に見舞った。この日の日記に「横浜脳病院ニ小野基道君ヲ見舞フ。当人ハ健康ノ自信ヲ失ヒタルヲ以テ、結婚ヲ恐レ、躊躇ノ様子。近々親父寅吉君上京ノ由。右ニ対シテ大ニ研究ヲ要スルコトナル…。聊カ閉口」とある。14日に温は来会の父親小野寅吉と面会し、結婚問題を協議した。また、この日綾子より心配の手紙が来ている。18日に温は横浜の神奈川病院に基道を見舞った。基道の病気は

快方に向かっていたが、病院の事務を執るにはまだ早いとのことであった。温は結婚を1ヶ年ぐらい延期することを考えた。そして、19日小野寅吉を訪問し、結婚問題（延期）を協議した。

長男の慎吾（大正元年8月23日生まれ、18歳）は、昭和5年3月松山中学を卒業し、4月17日上京し、受験勉強を続け、本年3月19日に東京帝国大学農学部実科の入学試験があり、21日合格した。この日の日記に「慎吾、九番ノ成績ニテ合格ス。右ニテ我家ノ重大問題ノーツガ解決ス。蓋シ、最後ノ学校ノ入学ノ能否ハ、当人并ニ一家ノ前途ニ大関係ヲ有スレバナリ」とある。そして、温は4月4日、安藤広太郎を訪問し、慎吾の保証人を頼んでいる。